



新しい出会いが はじめての一步



草ぶえの丘で一泊しボランティアについてあつく語り合った第1回つどいから、変化しながら今年で30回を迎えました。たくさんの人の想いととも、2月11日(土)志津コミュニティセンターでつどい実行委員会を中心に佐倉市ボランティア連絡協議会と佐倉市社会福祉協議会共催で盛大に開催されました。

ミニシンポジウム



客席の様子



東日本大震災で、自分にできる事をいち早く行動に移し活動されたパネリストの皆さんの貴重な経験と想いを発表してくださいました。

順天堂大学の笹倉さん、秋田さんは、友人がいたからボランティアの一步を踏み出すことができ、泥かきや写真の洗浄などをしてきました。

佐倉市被災地支援の会を立ち上げた鳥海さんは、震災後2~3週間で地域の方々の協力で集めたトラック3台分の物資を届けました。交流を続けることにより心のケアの必要性を感じ被災地の子どもたちを佐倉に招待できたらと考えています。

被災者を自分の会社に雇用した民間支援団体スマイルの大木さんは、現地の団体と協力して支援センターを設置し活動されています。震災から学んだことをまとめてくださいました。(左下参照)

3.11 東日本大震災で学んだ事

- ①動き出すことで物事が進むこともある
- ②「被災地の方たちは、何を必要としているのか？」ということを常に考えて動く
- ③「親切の押し売り」にならないように気をつける
- ④自分達が「できること」を「できる範囲」でやる
- ⑤日頃からのコミュニケーションの大切さ・仲間づくり



<パネリスト>
大木幸夫
鳥海孝範
笹倉睦穂
秋田佑衣
<コーディネーター>
豊田理恵子

会場では、「ボランティアに興味があったので、楽しみにして来ました。目が不自由な為、会場が少しざわついていたので聞きづらかったです。私も私にできることで今回ボランティアしました。」と言う声がありました。そのほかにも「スライドが見づらい!」「手話が読み取れない!」と…

スライドが見づらかったので照明を少し暗くしたところ手話が見づらくなり、あわててスポットライトを当てるなどトラブルが続きました。被災された方のために少しでも役に立ちたいという想いをパネリストの方からも、会場に足を運んでくださった方からも、強く感じました。



ステージ発表&フース



<ゲスト>
ハングリーハートの皆さん



手話ダンス虹



あしたの会



V連コーナー クラフト作り

体験コーナー

避難所生活に必要な情報をどのように伝えるかを体験しました。
要約筆記、手話、コミュニケーションボードなどがあります。
また、アイマスク・高齢者疑似体験で仮設トイレに行く体験をしました。



手話体験

少し難しかったです。自分も手話で少し会話ができたから楽しかったです。

高齢者疑似体験



「おじちゃんになると体が重くなるんだ！」

防災・減災のお話



講師：水島重光さん

「道路が海の川になってしまった！波で車が吸い込まれたようだった。逃がっている人は、みんなあせっていた！」



の印は、壁新聞部の豆記者が体験した感想です。

Q:「ダンボールの便器はどこに売っていますか？」



A: 体験で学んだ事をいかして、身近にあるビニール袋などで代用できますよ。

3. 11の避難所トイレで使われていたそうです。

コミュニケーションボード



イラストを指差すことで意思の疎通が図れます。このほか「救急の時」「お店で！」があります。



要約筆記は、耳の不自由な方の大事なコミュニケーション！

抽選会



恒例の抽選会では、企業や個人の方のご好意でたくさんの景品が集まり、大勢の方に喜んでいただくことができました。ありがとうございます。

アクシデントの連続でしたが、今回の経験を次の「つどい」にいかしていきます。

みなさんのご協力に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



11時15分いっせいに大ホールの周りに並んだブースにお客さんが流れ、お目当ての物を探す人、中央テーブル席に座って、こんにやく芋やビスコッティを頬張る人などステージの発表を見ながら楽しそうに会話が弾んでいました。

お昼はカレーライス大盛・中盛…と選べ美味しかったと好評でした。隠し味は桃とパインの缶詰がたっぷり入っているそうです。

